

「神の目線」

～あなたは物事をどのように解釈していますか？～

創13：5～18

(特にマイナス)

私たちは大概、悪いときに悪い決断をしてしまいます。感情的になり、焦って冷静になれません。冷静になれないということは怖いことです。語りかけられる色々な人の言葉を冷静でなければ正しく受け取れません。今私たちが置かれている状況をどう受け止めるかはあなた次第です。(創13：5～18)有名なロトとアブラハムの話です。一緒に旅をしていた二人は非常に満たされました。人は満たされると争いが起こります。満たされると人の価値観はどんどん鈍って悪くなり、自己中心になり人を平気で裏切り苦しめるようになってしまいます。ロトも立派な人でしたが、ロトの子供や使い達とアブラハムの使い達の間で争いが起きます。ロトとアブラハムが本当に善い関係であればこういうことは起きませんが、ロトとアブラハムの関係が狂ってくると、下の関係も狂ってくるのです。聖書を見ると、叔父であるアブラハムのほうから仲裁に行っています。当時、年齢の関係が大きかったことを考えるとロトの価値観が脱線していることがわかります。分かれて住むことになったとき、アブラハムは立派でした。「砂のように自分の子孫は増える」と言われた神様との約束をアブラハムはずっと持っていました。そのとき川や緑が豊かで、自分たちの家畜を育てるのにピッタリなソドムとゴモラの地と神様の約束の地であるカナンとどちらを選ぶかロトに選ばせました。神様の目線がどこにあるかを覚えておかなければいけません。ロトは神様の目線ではなくて目に美しいところを自己中心で選んだのです。神様は私たちに主体性を与えていますが、ロトは目の前にあることを選んだのです。神様は自ら選んだ道を無理やり力づくで戻すことはできないのです。私たちには主体性がありますが日本人はこの主体性を取り除いてきました。しかし自分の主義主張が自己中心から出ているからめめるのです。それが相手のため、命懸けの愛があればあなたの意見は人を動かす力になるのです。嫌なことがあると「ひどい目にあった」と言っていないですか。しかし自分たちは自分で種をまいてきたのです。人が言ってくれたことに対して文句として受け取るか、言ってくれたと受け取るか・・私たちが感じ取る気持ちに私たちがどう意識して受け取るか、そして自分の気持ちをいかに愛のあるメッセージとして伝えるか、これは私たちがこの世の中で幸せであるかどうかの端境期なのです。あなたは物事をどう解釈していますか。特にマイナスなことが起きたとき私たちはどう理解すべきでしょうか。アブラハムは立派でした。行った場所は荒地でしたが神様に文句を言わず、ダビデの時代にはそこは乳と蜜の流れる場所になったのです。アブラハムは賢かったのです。賢いか賢くないかは、主が言ったことをやっているかどうかです。①**神様の思いを知る**。私たちはあまりにも神様の思いをわかっていません。だから「どうして・・」となるのです。神様の思いが分からなかった人がイスラエルの人たちです。(マタ21：7～11)彼らはなつめやしを持ってイエス様を迎えました。イエス様を待っていたのです。このなつめやしには「不死鳥」という意味があります。どうやっても枯れません。しかし先端のキッパをとるとあつという間に枯れてしまいます。どんな強い木でも大切な物をとったら生きられません。だから神様を上において進むという意味でイスラエルの人々はキッパという帽子をかぶっています。しかしイスラエルの人たちは神様との関係を愛国心に変えていってしまいました。ローマ人に統治されていた人々はイエス様を救い主として見ていなかったのです。その救い主というのもローマ兵を倒してくれる立派な兵士としてみたのです。イエス様のことをローマの統治から解放される方法を教えてくれる「預言者」として捕らえていたのです。イエス様を枯れない、立派な人として迎えたのです。しかし、イエス様はそうではなく、自分たちのやっていることを悪として宮清めをしたので十字架に架けてしまいました。目線が違っていたのです。目線を間違っではいけません。苦しいことや自分の価値観と違うことがあると脱線してしまうのです。神様や隣の人が言っている本意、本質がわかっていますか。わかっていないと言われるとむかつくのです。神様の思いを知らないと脱線してしまいます。だから②**誤って受け取ってはいけない**。1部分を受け取るから誤って受け取るのです。人の言葉だけでなく、今の環境、特に辛い状況であればあるほど誤って受け取ってはいけません。見方を誤ってしまうと、その後には素晴らしい恵みがあっても受け取れません。見誤らず正しく受け取ることができれば神様はマイナスをプラスにしてくれるのです。実のならないときに実をならせなければいけません。マイナスをマイナスで終わらせるのは簡単ですが、それではいけません。ダビデはマイナスであればマイナスであるほど逃げませんでした。間違えたら戻ればよいのです。③**自信を持つ**(神様の創造された姿に) 私たちはすばらしく造られたのです。その姿に自信をもってください。頑なな自信ではありません。自信は間違っことを受け入れられます。でも劣等感の人は認められません。ごめんなさいができないのです。神様はあなたに自信を持つと言っているのです。あなたが間違っているのではなく、あなたの「取り扱い方」が違うのです。価値観が狂ってくるとダメなところばかり見えてきます。あなたをダメにするのはあなたです。だからこそあなたがどういうものであるのか見てほしいのです。(詩1：1～6)このまま悪者の道に進むと滅んでしまいます。使い方を誤ったり、人を裁いたりしてはいけません。だからその人の本当のすばらしい姿を見て人を愛するのです。人のよいところを見たら、人もあなたのよいところを見てくれます。あなたの本質はすばらしいのです。神様の造られたすばらしい姿に自信を持って、その姿に戻っていきましょう。(要約者：岩崎 祥誉)